

平成30年度 鳥取県議会台湾訪問団 報告書

〔平成30年10月31日（水）～11月4日（日）〕



＜＜台中フローラ世界博覧会の三朝町PRブースでボランティア・スタッフをされていた台中市立石岡国民中学の皆さんと＞＞



作品「とっとり花回廊と鳥取県」
（台中フローラ世界博覧会后里会場）



鳥取県物産展の店頭販売
（裕毛屋台中崇徳店）



英語特別授業の見学
（台中市立沙鹿国民中学）

鳥取県議会

（インターネット公開版では、一部写真の画質を変更しています）

1 訪問日程及び訪問先

平成30年10月31日（水）～11月4日（日）

台湾（台北市、台中市）

※詳細は「4 日程表」のとおり

2 訪問団メンバー

団 長 藤 縄 喜 和 議員

副団長 内 田 博 長 議員

秘書長 浜 田 一 哉 議員

島 谷 龍 司 議員

＜随行＞ 議会事務局 調査課 課長補佐 中 島 正 人

議事・法務政策課 係 長 片 山 博 紀

3 所感及び県政に対する提言

今回の県議会による台湾訪問団は、鳥取県における観光産業の振興、県産品の輸出拡大及び教育水準の向上等を図るため、本県と台中市との地域間交流の現状や課題、台湾における防災及び教育の取組等について調査することを目的に、台北市及び本県と交流を続ける台中市を訪問した。

日本と台湾は、日中国交正常化により国家間の正式な国交はないものの、緊密な人的往来と文化交流、そして重要な経済パートナーとして良好な関係を維持している。本県においては、平成9年（1997年）に梨の穂木の輸出をきっかけとし、平成12年（2000年）に知事が訪問して以来、農業、観光、スポーツ、文化など各分野において、民間交流を含め、多岐にわたる領域で台湾、特に台中市との交流が続いている。

県議会においても、台湾への議員の公式訪問は平成16年（2004年）から始まり、特に台中市への訪問は、旧台中県時代を含め、平成17年（2005年）以来ほぼ毎年交流を積み重ね、今回で通算10回目となる。この節目に当たる本年、本県は台中市と友好交流協定の締結に至ったが、今回の訪問団は、鳥取県代表の一員として友好交流協定の記念すべき調印に立会し、本県と台中市との官民交流の証を確認することができ、交流のさらなる深化の方向性を探る上でも、誠に時宜にかなうものとなった。

本訪問団は、台中市との友好交流協定締結に伴う関連行事に出席したほか、台湾日本関係協会の張淑玲秘書長、公益財団法人日本台湾交流協会台北事務所の星野光明首席副代表及び台中市の林佳龍市長と面会し、本県と台湾・台中市との地域間交流に関する意見交換を行った。また、三朝温泉と姉妹温泉関係にある谷関温泉を訪問し、台中市温泉観光協会の羅進州理事長と観光産業の振興に関する意見交換を行い、鳥取県物産展の開催当日に、裕毛屋台中崇徳店を視察し、裕毛屋企業股份有限公司の謝明達執行総経理から県産品輸出のあり方に関するお話を伺った。

さらに、台中市立沙鹿国民中学では、洪幼齡校長先生から授業専任教員を配置する取組についてお話を伺い、実際に専任教員が行う英語授業の様子を見学させていただいた。九二一地震教育園區では、防災教育の状況に関する調査を行ったところである。

以下、これらの概要と成果を報告する。

始めに、観光産業の振興及び県産品の輸出拡大に向かうべき観点から、本県と台中市との地域間交流のあり方について、所感及び県政に対する提言を具体的に述べたい。

日本と台湾との交流を維持する実務機関として重要な役割を担っている台湾側の台湾日本関係協会及び日本側の公益財団法人日本台湾交流協会によると、昨年（平成29年（2017年））の日本と台湾との人的往来は646万人を突破し、過去最高を更新している。日本人訪台者は前年比0.1%増の189万人にとどまるものの、台湾人訪日者は前年比9.5%増の456万人となっている。特に台湾人訪日者は7年連続の伸長であり、7年前比では359%増と激増している。

台湾から本県への入り込み客数についても、平成28年（2016年）の13,280人に対し、平成29年（2017年）は前年比21.9%増の16,190人に伸ばし、過去最高だった平成27年（2015年）の17,570人に迫る回復基調を見せており、十年余にわたる「まんが王国とっとり」や「食のみやこ鳥取県」等によるブランド戦略が功を奏し、堅調に推移している。

確かに、外国から本県への入り込み客数自体は、韓国、香港、台湾の順であり、台湾からの訪問者の規模は韓国の3分の1程度にとどまるが、韓国及び香港との間には定期直行便がある中、台湾との間には定期直行便がないにもかかわらず、これほどの規模人数の宿泊があることは大いに注目すべきことであり、台湾から鳥取へ向かうインバウンド需要の大きさが窺い知れる。

さらに踏み込むと、こうしたインバウンド需要の存在は、そのまま台湾現地における鳥取県への関心の現れであり、台湾現地における「鳥取」ブランドの浸透度を示唆するものでもある。ここに、鳥取県産品の潜在市場として台湾を見出すことができる。

また、一般的に、外国との地域間交流には、二国間の政治問題、外交情勢に左右されやすい側面があることは否めないが、台湾に限っていえば、正式な国交こそないものの、日台関係は成熟した安定傾向にあることから、経済・文化等の民間交流に専念できる環境が整っており、自治体交流に対しても、外交当局からの積極的な支援を見込めるところである。

こうした状況認識の下、本県としても、友好交流提携都市となった台中市との関係については、安定した日台関係を背景に、機を逸せずいっそうの成熟を図るべきであり、農業はもちろんのこと、観光、青少年、スポーツ、文化、教育等の各分野における交流を多角並行的に、かつ一步一步着実に展開していくべきである。たとえば次のような取組が考えられるので、提言する。

- (1) 台湾から本県への入り込み客を円滑に受け入れるためには、台湾との定期直行便、少なくとも定期チャーター便の就航を悲願とするところである。そのためにも、先ずはチャーター便の誘致に積極的に取り組み、フライト及び搭乗者の実績数を計画的に積み上げ、機運をいっそう高めていくべきである。

その際、インバウンド推進策として、鳥取砂丘コナン空港・米子鬼太郎空港を起点とする訪日台湾人向けの魅力的な周遊観光プランの造成に取り組むことが重要であり、需要にきめ細かく応じるため周遊プランのメニューについては、県内の有力観光地はもちろん、県外を含む多数の選択肢を用意することが望ましい。

また、搭乗率確保のためには、アウトバウンドも伴わなければならない。たとえば、修学旅行や教育旅行の行き先を台湾とすることをこれまで以上に推進したり、県民のパスポート保有率が約14%と全国平均を下回っていることを踏まえ、パスポート取得費用助成制度のさらに積極的な活用を検討したりすることが考えられる。

なお、空港・海港のリピーターを確実に増やしていくためには、利用客がストレスなく短時間で通関や安全検査を通過できることが極めて重要である。平成26年の台湾訪問団からも同じ提言があったところであるが、通関及び安全検査の運用円滑化は、鳥取砂丘コナン空港、米子鬼太郎空港、境港に共通する課題であり、改めて検証することが考えられる。

- (2) 本県と台中市との間では、県市の広域自治体同士だけでなく、三朝町と石岡区、北栄町と大肚区のように基礎自治体・単位行政区同士の友好交流も育まれている。観光、商工、青少年、学校、スポーツといった地域密着分野で交流が重ねられており、鳥取と台中との縁を、他に類を見ない「顔の見える関係」へ深化させていく大きな可能性を感じずにはいられない。この際、本県の他の市町村についても、台中市のいずれかの区との間で友好交流の機会を持っていただけるよう、県によるあっせんを試みる事が考えられる。
- (3) 県産品の輸出拡大に向けては、台湾の有力購買層が食料品に求める安心・安全・健康・高品質志向に応じていくことが重要であり、県としても、市場分析に長けた現地バイヤーとの意見交換を緊密に行いつつ、台湾向け鳥取県産品の食材、果実、農作物のブランド・イメージ形成と供給体制の確立を図るべきである。
- (4) 観光産業の振興に向けては、人的交流のさらなる推進に台中市側の関心があるように見受けられる。たとえば、台湾からは既に大学生の短期インターンシップを県内のホテル・旅館業界で受け入れていただいているが、台中市をはじめとする台湾側の意向や需要によっては、長期インターンシップや若手従業員の研修受入れについても、県で検討することが考えられる。

続いて、教育水準の向上等に向かうべき観点から、外国語教育及び防災教育のあり方について、所感及び県政に対する提言を具体的に述べたい。

台中市教育局では、優秀な教師を英語輔導団(台中市国教輔導団語文領域国中英語小組)に選抜し、担任を持たせず英語教授に専念させる取組を実施している。輔導団に所属する教師は、本務校にとどまることなく、複数の学校を巡回し、各学校で英語の特別授業を担当する。特別授業の方式は、いわゆるアクティブ・ラーニングと呼ばれるものであり、他の教員の見学・研修にも用いられ、英語授業のノウハウの教授が行われるものである。

本県教育委員会においても、類似の制度として、平成20年(2008年)から公立学校エキスパート教員認定制度が導入されているが、改善の余地を探る上で、台中市教育局の国民教育輔導団制度との比較が有益と思われる。たとえば次のような検討が考えられるので、提言する。

- (5) 本県教育委員会の公立学校エキスパート教員認定制度では、認定教員が担任を持たず英語の教授に専念するというわけではなく、授業の担当や他の教員に対する教授方法の指導・助言も、所属校限りの活動とされている。学校教育制度や地域の実情が異なることから単純な比較は難しいが、担任や校務分掌を持たない教授専念型教員の配置や複数校での授業実施の可能性については、県としても調査研究を行うべきである。

また、九二一地震教育園區では、平成11年(1999年)9月21日に台湾中部内陸部を震源として発生し、台湾で20世紀最大となる地震被害をもたらした九二一大地震(台湾大地震)の震災遺構が保存され、防災教育施設として活用されていた。1階が押し潰された中学校の校舎や激しく隆起し寸断された陸上トラックといった遺構の保存状態は良好で極めて生々しく、観る者に厳粛な想いを突き付けるものであった。ただし、必ずしも謹厳一辺倒の施設ということではなく、遊具や漫画、アニメも多用されており、若者や児童生徒に親しみやすい雰囲気とする工夫が随所に施され、視察当日も、校外研修で来園したと思われる修学バスが多数駐車しており、幼児を含む家族連れの姿も見受けられた。

- (6) 地震に限らず風水害も相次ぐ昨今、県民の生命と安全を守るため防災教育が重要であることは明らかであるが、先人や我々の経験や教訓を正しく受け継いでいくためには、遺構や遺物、映像、

写真、音声、証言といった追体験型資料の整備が極めて有効である。顧みれば、本県も、平成28年（2016年）の鳥取県中部地震、平成12年（2000年）の鳥取県西部地震、昭和18年（1943年）の鳥取地震と、東中西すべての地域を震源とする大規模地震に被災した経験がある。時の経過とともに風化が避けがたいことを十分に意識し、県内で発災した大規模災害の追体験型資料の収集、保存及び提供のあり方について、県として改めて調査研究を行うべきである。

最後に、今回初めて訪問した裕毛屋企業股份有限公司をはじめ、厳しい日程にもかかわらず意見交換に快く応じてくださった台湾日本関係協会及び公益財団法人日本台湾交流協会台北事務所、また、台中市政府や台中市立沙鹿国民中学、台中市温泉観光協会など、御招待にあずかり、又は快く訪問を受け入れ、熱烈な歓迎をさせていただいたことに感謝したい。これは、これまでに培ってきた日本と台湾との絆の深さと、協力関係が積み重ねられてきた成果にほかならない。

外交の基本は継続による信頼関係の構築である。議会としても、台湾・台中市との間で、自治体交流並びに農業、青少年、スポーツ、文化及び教育等の分野における親密な協力関係を維持していくとともに、台湾人訪日者が急増しつつある観光分野を含め、人的交流及び物流をさらに加速させ、友好交流の名にさらに豊かな実が伴うよう、関係の深化を推し進めていくべきと考える。

今後、今回の台湾訪問から得た成果に基づき、さらなる情報発信や政策提言を期するとともに、日台間の従前以上の友好親善と、お互いの文化、経済、交流の発展に尽くすことを誓い、所感及び県政に対する提言とする。

4 日程表

月 日	日 程		移 動	宿 泊
10月31日 (水)	8:40	鳥取砂丘コナン空港→羽田空港	ANA294	台北市内
	9:00	米子鬼太郎空港→羽田空港	ANA384	
	12:40	羽田空港→台北松山空港	NH853	
	18:00	・台湾日本関係協会《意見交換》	借上バス	
11月1日 (木)	9:00	・日本台湾交流協会台北事務所《意見交換》	借上バス	台中市内
	10:46	台北駅→台中駅	高速鉄道	
	13:00	・台中市立沙鹿国民中学《調査》	借上バス	
	18:00	・台中市温泉観光協会《意見交換》	借上バス	
11月2日 (金)	10:00	・裕毛屋台中崇徳店《調査》	借上バス	台中市内
	11:30	・鳥取県・台中市友好交流協定締結記念昼食会	借上バス	
	13:30	・鳥取県・台中市友好交流協定締結式典	借上バス	
	15:30	・九二一地震教育園區《調査》	借上バス	
	18:00	・台中フローラ世界博覧会公式レセプション	借上バス	
11月3日 (土)	10:00	・台中フローラ世界博覧会《調査》	借上バス	東京都内
	13:32	台中駅→台北駅	高速鉄道	
	16:50	台北松山空港→羽田空港	NH854	
11月4日 (日)	9:25	羽田空港→米子鬼太郎空港	ANA383	—
	9:30	羽田空港→鳥取砂丘コナン空港	ANA295	

5 訪問先の概要

【平成30年10月31日（水）】

（１－１）台湾日本関係協会（台北市）

〔応対者〕 張淑玲 秘書長、洪英傑 専門委員、劉倍碩 科員、林育徳 科員、邱妘楡 科員

台湾日本関係協会主催の歓迎夕食会を開催していただき、日台間の鳥取県と台湾との間のさらなる交流の推進等について意見交換を行った。主な懇談内容は次のとおりである。

【主な懇談内容】

- ・ この度、鳥取県と台中市が友好交流協定の締結に至ることは誠に喜ばしく、お祝い申し上げます。
- ・ 鳥取県と台中市は、昨年、観光交流協定を締結し、それから１年で本協定へと進むこととなったが、両者の今に至る縁の深さを考えると、これまで協定を結んでいなかったことがむしろ意外である。
- ・ 日本と台湾との間には国交こそないものの、日台の民間交流は極めて良好であり、自治体間交流も活発である。その中でも、鳥取県は早くから台中市との友好交流に取り組んでおり、官民ともに人的交流を重ね、顔の見える関係の構築に努めている。
- ・ 鳥取県庁が台湾出身者を国際交流員として採用していることは、交流人材確保の最たるものであり、今後とも末永く継続してもらいたい。
- ・ 台湾日本関係協会としても、台北本部と鳥取県を担当する台北駐大阪経済文化弁事処との間を往復する人材を手厚く供給し、鳥取県と台北市との友好交流のさらなる発展の支援に努める。
- ・ 台湾では11月24日に統一地方選挙が実施されるため、現在は選挙一色である。台中市と高雄市は旧県と旧市の合併で直轄市に昇格して間がなく、市長選挙では二大政党の激突に加えて旧県市間競争の様相も見受けられ、注目度が高い。



張淑玲 秘書長（左から５人目）を囲んでの記念撮影

【平成30年11月1日（木）】

（２－１）日本台湾交流協会台北事務所（台北市）

〔応対者〕 横田光弘 首席副代表、星野光明 首席副代表（経済総括）、相馬巳貴子 経済部主任（貿易相談組長）

公益財団法人日本台湾交流協会台北事務所を訪問し、日台交流の概況、特に日台間の定期航空路線を巡る情勢や台湾向けの本県観光商品の造成及び県産品輸出の促進について、説明を受け意見交換を行った。主な懇談内容は次のとおりである。

【主な懇談内容】

- この度、鳥取県は台中市との間で友好交流協定を締結することとなり、同時に開幕する台中フローラ世界博覧会にも出展する。鳥取県と台中市とは、約20年前に鳥取県の特産品である梨の穂木を合併前の台中県に輸出したことを契機に、長いつきあいを重ねてきた。交流分野は、農業・経済から始まったが、近年は観光・青少年交流・スポーツ交流にまで及ぶ。この成果が、昨年事務レベルで締結した観光交流協定を経て、今回の友好交流協定の調印へ結び付いたものとする。
- 日本台湾交流協会としても、鳥取県と台中市との友好交流協定の締結を、誠に喜ばしく受け止めている。
- 鳥取県で宿泊する外国人は、韓国、香港、台湾の順で多い。韓国との間ではエアソウルの定期航空便が週6便あり、香港との間にも香港航空の定期航空便が週3便ある。台湾との間には定期航空便がないにもかかわらず、台湾では鳥取県が人気の観光スポットになりつつあり、関西国際空港や岡山空港、あるいは陸路経由でかなりの人数の来訪がある。
- 日韓の定期航空便については、昨年ころから韓国LCCによる日本の地方空港への新規就航が活発になってきたが、これは香港の場合にも当てはまることだが、どうしても時の日韓・日中の二国間の政治問題、外交情勢に左右されやすい側面がある。これに対して、日台の定期航空便については、国交こそないものの日台間の政治・外交に余り問題がないこともあってか、台湾LCCの関心はもっぱら路線の採算性に寄せられる。
- 台湾LCCを日本の地方空港へ招致するための大きな課題は二つである。まず、日本の地方空港に着いた後、訪日台湾人向けにそれだけ魅力的な周遊観光プランを用意できるか。たとえば、岩手県の花巻空港では、今年8月からタイガーエア台湾の国際定期便(花巻ー台北)が就航したが、台北から花巻に降りた後は、東京までずっと周遊することができるような観光パックも用意されていると聞く。
- 次に、日本側からの搭乗率をいかに増やすかということである。インバウンドだけではなく、アウトバウンドにも積極的に取り組む姿勢を打ち出すと、台湾の航空業界は計算が速いので、LCCの就航を即決してもらえることがある。日本側の搭乗率支援策としては、修学旅行の行き先を台湾にすることが効果的である。日台の修学旅行生の人数を比較すると、日本の方が台湾よりもはるかに多く、5倍くらいの人が行く。また、パスポート取得費用の補助も有力な施策である。日本人のパスポートの取得率は全体で約25%とそもそも低い数値だが、中国地方に限定すると10%前後まで落ち込む。修学旅行生をはじめとして、パスポートの取得を県が支援し、県民のパスポート取得率を伸ばし、台湾への渡航が可能な母数を増やすところから始める。特に、若者世代の渡航促進は、短期長期の両面で効果が大きい。
- 航空路線の利用者数を増やすためには、観光交流をしっかりと行い、その上でスポーツ、文化と裾野を広げていくこととなるが、やはりビジネス交流が下支えにならないと、なかなか拡大していかない。最近では、地方の商工会の方々が訪台することが増えている。最初は商工会の会長さんだけで訪問されるが、その後に皆さんで再訪されて、回数を重ね人数を増やしていき、ビジネス交流の底辺を広げていく。こうした事例が他県で見受けられるので、そういうことも参考にしながら交流人口を増やしていくことを期待したい。
- 日本の地方空港の中には、通関や安全検査に時間を要することがあり、到着後や出発前に1時間以上、下手をすると2時間拘束されるところがある。せっかく定期航空便が飛んでも、

空港運用の不手際で航路の利便性が損なわれ、利用者にストレスが生じてしまつては、台無しである。鳥取砂丘コナン空港でも、かつて台湾からの自転車持ち込みの通関で長時間を要した例があり、台湾との自転車交流が中断したことがある。ストレスなく通関や安全検査を通過できる空港は、やはりリピーターが増えていく。通関や安全検査の円滑な運用は極めて重要なことである。通関の運用は、設備を1台増やすか、人員を増やすか、いずれにせよほんの少しの措置で劇的に改善される。問題が生じているのであれば、県と国との間で改善策をしっかりと相談していくことが肝要である。

- ・ 通関の運用円滑化は、境港での国際定期航路や国際クルーズ船の受入れにも当てはまる課題である。通関機能については、境港と米子鬼太郎空港、鳥取砂丘コナン空港との間で連携していくことも考えられる。
- ・ 昨年、鳥取県の和牛が肉質日本一になったが、最近の台湾では、宮崎牛の轍をたくさん見かける。昨年の10月初旬のことだったが、日本から台湾に輸出された和牛第一便が宮崎牛のA5だった。その時の宮崎県関係者による「宮崎牛のA5」にこだわった売り込みが非常に熱心で、一気に宮崎牛のA5がブランドとして供給され、今の広がりに至っているという経緯がある。本来、牛肉の格付け等級はA5が最上というわけでもないし、霜降りのしゃぶしゃぶが最もおいしい食べ方だと言い切れることもない。このブランドの和牛は、こういう肉質の特徴があるので、こういう料理をして、こういう食べ方をすると、とてもおいしい。そういうストーリーをきちんと説明し、おいしい食べ方を提案する宣伝広報が重要である。台湾でも、単に売場面積を確保し、商品を置いておくだけでは全然売れない。鳥取和牛についても、こうした観点を踏まえ丁寧に魅力を発信していけば、台湾での商機を見出すことができるはずである。
- ・ 現在、日本中の自治体が台湾との地方間交流を競争している。実は、従来の日台交流を、台湾の地域別で見れば、首都の台北限りを圏域とするものが70%超を占めてきた。それが最近ようやく、台中、台南、高雄と南側に交流圏域が広がりつつある。こうした中、鳥取県は台中市との友好交流にこつこつ取り組んできたわけであるから、今後はその先見の明を生かし、ぜひとも一步を先んじて台中市との協力関係を深めていくことが大事である。



横田光弘 首席副代表（左から3人目）を囲んでの記念撮影

（2－2）台中市立沙鹿国民中学（台中市）

〔応対者〕 台中市立沙鹿国民中学 洪幼齡 校長、台中市立石岡国民中学 鄭清峰 校長、台中市

英語輔導団 李國禎 先生、台中市教育局関係職員

英語教育及び国際交流に力を入れている台北市立沙鹿国民中学を訪問し、その取組内容について調査を行い、また、中学2年生の英語授業を見学させていただいた。主な調査内容は次のとおりである。

【主な調査内容】

- ・ 台中市立沙鹿国民中学は、国際交流に熱心に取り組んでおり、昨年7月には教育旅行の一環で鳥取県を訪問し、日南町立日南中学校及び倉吉市立久米中学校と生徒同士の交流を行った実績がある。
- ・ 台中市立沙鹿国民中学は、生徒数1,512名（3学年59学級）、職員数165名のいわゆる大規模校であり、台中市内でも有数の進学実績を誇っている。
- ・ 台中市立沙鹿国民中学における英語教育の質が高いとされる要因としては、英語教育のための設備が充実し、英語教師が生徒の関心を引きつけるような授業を行うことができるからである。
- ・ 台湾では、義務教育を受ける児童・生徒の英語能力の向上を国策としており、予算措置により設備と機材の拡充に努めている。
- ・ 英語教員の資質向上については、台中市の場合、優秀な教師を英語輔導団（台中市国教輔導団語文領域国中英語小組）に選拔し、担任を持たせず英語教授に専念させている。本務校にとどまることなく、複数の学校を巡回し、それぞれの学校で英語の特別授業を担当する。その特別授業は、他の教員のための見学・研修にも用いられ、英語授業のノウハウの教授が行われていく。
- ・ 英語の特別授業は多目的教室で行われる。教師はプロジェクターを操作し、ビジュアルを多用したスライドを教材として用い、日常や生活に関する英会話を表現していく。教師の発言は英語中心で行われるが、中国語で補足説明を挟むこともある。
- ・ 生徒にその場で課題を与え、グループ単位で議論させ、発表させるなど教師と生徒との双方向対話型授業を多用する。課題の例としては、台詞の部分が空欄となっている四コマ漫画を出題し、コマの順番と英語台詞の穴埋めを生徒の自由な発想に任せ、各グループに自分たちなりの回答を発表させる。その上で、教師が簡単に講評し、さらに生徒同士でも講評を行い、最も優れている回答を生徒全員の投票によって決めていく、といった方法が用いられる。
- ・ なお、多目的教室は、廊下側内壁が九二一大地震をはじめとする台湾での地震の歴史と教訓を写真入りで説明する展示パネルを兼ねており、防災教育にも活用されている。



英語輔導団教員による特別授業の様子



生徒グループの回答例



防災教育展示パネルを兼ねる教室の壁



洪幼齡 校長（中央上）、李國禎 先生（中央下）、沙鹿国民中学208組生徒の皆さんとの記念撮影

（２－３）台中市温泉観光協会（台中市）

〔応対者〕 台中市温泉観光協会 羅進州 理事長、総 理事（統一度假村經理）、蘇冠霖 事務局長
神木谷假期大飯店 郭存彰 經理、台中市和平区民代表会 管慧莉 代表

台中市温泉観光協会主催の歓迎夕食会を開催していただき、鳥取県と台中市との間のさらなる観光交流の推進等について意見交換を行った。主な懇談内容は次のとおりである。

【主な懇談内容】

- ・ 台中市温泉観光協会は11軒の旅館とホテル（神木谷假期大飯店、恵来谷関、統一度假村、四季温泉、伊豆温泉、谷野会館、東勢林場、日光温泉、麒麟峰温泉、清新温泉、帝輪温泉）が法人会員を構成し、個人会員数は105名である。
- ・ 来年の初夏には星野リゾートが谷関温泉での開業を予定している。これを契機に、谷関温泉を訪れる日本人観光客が増え、谷関温泉の日本における知名度・注目度がさらに向上することを期待している。
- ・ 台中市の谷関温泉は鳥取県の三朝温泉と姉妹温泉である。三朝温泉は大変魅力的な温泉であるが、三朝のラジウム温泉は台湾人にとってはなじみのあるものではないので、広報宣伝に際しては温泉の効能を詳しく説明する必要がある。
- ・ 亜熱帯にある台湾では雪が降ってもスキーができるほどは積もらない。雪景色に憧れを抱く台湾人は多い。鳥取の冬を台湾に向けて広報宣伝する際には、スキー場だけでなく、幻想的な雪景色を眺めながら温泉に浸かることができる雪見温泉の要素を売り出すことも考えられる。
- ・ 台湾の大学生を対象に、鳥取県内の旅館・ホテルで約1か月のインターンシップを受け入れていただいている。今後、この交流実績を活用し、台湾の調理・観光分野の学科学生又は見習い従業員を対象に、半年から1年間程度の長期研修を鳥取県内の旅館又はホテルで受け入れていただき、日本流のおもてなしを本格的に習得する機会を設けてもらうことはできないだろうか。最近の若者はSNSで情報の交換や交流を活発に行う。研修に行く学生から多

くの台湾の若者に向けて鳥取に関する情報が発信されていく効果も期待できると思われる。

- ・ 台中市和平区は、生産される果物の種類が豊富で、特に9月中旬から11月中旬の柿、11月下旬から1月の雪梨が人気である。鳥取県北栄町も、果物が豊富で、特に台湾人が好むスイカが有名だと聞く。
- ・ 台中と鳥取との定期航空便の実現に向けては、台中市温泉観光協会としても、できる限りの支援を行っていく。



羅進州 理事長（中央）を交えた歓迎夕食会の様子

【平成30年11月2日（金）】

（3-1）裕毛屋台中崇徳店（台中市）

〔対応者〕 裕毛屋企業股份有限公司 謝明達 執行総経理

日本の地方自治体との連携に熱心で、多くの物産展開催実績がある裕毛屋を訪問し、その取組内容について調査を行い、また、当日、実施されていた鳥取県物産展を見学させていただくことができた。主な調査内容は次のとおりである。

【主な調査内容】

- ・ 裕毛屋は、台中市を中心に3店舗を展開する高級スーパーマーケットであり、台中市内では1位の売り上げを誇る。「安心・安全・健康・自然」をモットーに無添加・無農薬食材を中心に取り扱い、その中で日本直送品が商品全体の8割を占めている。
- ・ 裕毛屋の経営元である株式会社裕源は台湾外資系の日本企業である。台湾一部上場企業である福懋興業股份有限公司の日本支社として設立され、その後分離独立し現在に至る。台湾本社グループ製品の日本総販売元であるとともに、セブンイレブン、イトーヨーカ堂、ヨークベニマル向けのオリジナル・プレミアム商品、販促物、業務用資材等の開発・輸入を行う。近年は、自社製品とは別に台湾産の果実・農産物の日本への輸入や日本産の食材・果物・農産物の台湾への輸出を積極的に展開している。
- ・ 裕毛屋の店頭には、株式会社裕源が日本各地から調達した日本産の食材、果実、農産物が生産県別に並んでいる。加工食品についても、無添加・無農薬の日本食材を用い、完全自社開発で取り組んでいる。ジュース、ジャム、ソーセージ、かまぼこ、スープ、アイスクリーム等の多数の商品を揃えており、保存料を使わないことから冷凍で販売されている。なお、パンや弁当、総菜もすべて日本産の無添加・無農薬食材から調理・提供される。

- ・ 日本産の食材、果実、農作物は安心・安全かつ高品質であることから付加価値が高く、高級食品としてのポテンシャルが大きい。台中市は台湾でも富裕層、家族世帯が多いことから、主に日本産品を取り扱う高級スーパーマーケットという販売モデルに商機があると判断し、裕毛屋の多店舗展開に踏み切った。
- ・ 日本産という大枠ではなく日本の産地別による細やかなブランド・イメージの形成にも注目しており、日本の各地方自治体との協力関係の構築に努めている。物産展については、必ず産地の地方自治体と共同で実施することにしており、その自治体関係者が店頭に立ち、お客様に直接、産地と食材を売り込んでもらうことを条件としている。
- ・ この日、裕毛屋台中崇徳店では鳥取県物産展が開催されたが、開店前の朝礼では、鳥取県からも自治体や生産者団体の関係者が揃って立ち会い、物産展で売り込もうとする主な食材の特徴や魅力についての説明が入念に行われ、売場担当すべての店員の間で情報共有が円滑に行われていた。
- ・ なお、全国農業協同組合連合会鳥取県本部（JA全農とっとり）関係者の方々が熱心に店頭販売に取り組む中、平井伸治鳥取県知事とチーム「百花繚蘭」とによるしゃんしゃん傘踊りの披露も行われ、生産者と行政が一体となつての県産品セールスが展開された。



鳥取県物産展における県産品陳列の様子



謝明達 執行総経理（中央）を囲んでの記念撮影

（３－２）鳥取県・台中市友好交流協定締結記念昼食会（台中市）

〔出席者〕＜台中市関係者＞台湾日本関係協会 陳訓養 総領事回部弁事、台中市政府 張光瑤 副市長、陳盛山 観光旅遊局長、高文生 石岡区長、台中市温泉観光協会 羅進州 理事長、裕毛屋企業股份有限公司 謝明達 執行総経理、台中市后里区農会、ほか多数。

＜鳥取県関係者＞鳥取県 平井伸治 知事、門脇誠司 観光交流局長、鳥取県議会 藤縄喜和議員、内田博長議員、島谷龍司議員、浜田一哉 議員、北栄町 手嶋俊樹 副町長、鳥取県日台親善協会 山根英明 理事、全国農業協同組合連合会鳥取県本部 尾崎博章 本部長、ほか多数。

鳥取県・台中市友好交流協定締結式典に先立ち、鳥取県・台中市の今日に至る友好交流の発展に寄与されてこられた台湾側関係者に対する感謝の意を伝えるため、鳥取県知事の主催による記念昼食会が催され、本訪問団も鳥取県側の一員として出席させていただいた。主な懇談内容は次のとおりである。

【主な懇談内容】

- ・ 鳥取県と台中市との間で友好交流協定が締結されることは誠に喜ばしい。関係者の皆様の今日までの御尽力に心からの敬意を表する。
- ・ 鳥取と台中との交流は、鳥取の梨穂木を台中の梨の樹に接ぎ木することから始まった。今後の交流については、その由来となった農業はもちろんのこと、観光交流、青少年交流、スポーツ交流、教育交流へと裾野を広げていきたい。
- ・ 今回は鳥取と台中との直通チャーター便が実現したが、近い将来は、鳥取と台中との間に定期航空便が就航できるよう、機運を高めていきたい。



来賓代表として挨拶をする藤縄喜和団長（中央）

（３－３）鳥取県・台中市友好交流協定締結式典（台中市）

〔出席者〕＜台中市側＞台中市政府 林佳龍 市長、陳盛山 観光旅遊局長、呂曜志 経済發展局長、王慶堂 スポーツ局長、卓冠廷 新聞局長、高文生 石岡区長、陳嘉榮 大肚区長、ほか台中市関係者多数。外交部中部弁事処 宋子正 処長、台湾日本関係協会 陳訓養 総領事回部弁事、台湾日本関係協会 洪英傑 専門委員、台中市温泉観光協会 羅進州 理事長、裕毛屋企業股份有限公司 謝明達 執行総経理、ほか台湾官民関係者多数。

＜鳥取県側＞鳥取県 平井伸治 知事、門脇誠司 観光交流局長、鳥取県議会 藤縄

喜和 議員、内田博長 議員、島谷龍司 議員、浜田一哉 議員、鳥取県北栄町 手嶋俊樹 副町長、北栄町議会 飯田正征 議長、鳥取県日台親善協会 山根英明 理事、全国農業協同組合連合会鳥取県本部 尾崎博章 本部長、ほか鳥取県日台親善協会、全国農業協同組合連合会鳥取県本部及び鳥取県農協柿部長協議会関係者多数。

鳥取県議会議員訪問団も鳥取県代表の一員として、台中市庁舎で行われた鳥取県・台中市友好交流協定締結式典に出席し、平井伸治知事及び林佳龍市長による協定書への調印に立会した。席上、台北市側の主な発言は次のとおりである。

【台北市 林佳龍 市長の発言要旨】

- ・ 台中市は、こうして鳥取県と友好交流協定を締結することができ、大変光栄である。
- ・ また、鳥取県においては、翌日から開幕する台中フローラ世界博覧会に「自然とグルメの鳥取県」をテーマに、国際室内花コンテスト部門に出展していただき感謝を申し上げる。また、台中宣言へも署名していただき、博覧会に美しい光彩を放つところとなった。
- ・ この度の友好交流協定の締結は、一方で過去20年余にわたる努力の成果であり、同時に、これからも両地域が提携していくことができる証になってくれるものと期待している。
- ・ 台中と鳥取との交流は、約20年前に梨の穂木を輸入することがきっかけとなった。農業の交流から始まり、徐々に文化、教育、スポーツ、そして観光といった分野まで拡大することができた。その間、石岡区と三朝町、大肚区と北栄町との間の地域間交流も広がっていった。このように地域と地域が深く打ち解けていく交流が実現していることは、とても素晴らしい成果である。
- ・ また、台中市と鳥取県との間には温泉の交流もあり、昨年には観光交流協定が結ばれ、今年の新たな友好交流協定へと発展した。
- ・ この度、鳥取県からこのような大規模訪問団がチャーター便に乗り、訪台されたことは、大変喜ばしい出来事である。鳥取県が台湾との定期直行便の就航を強く希望されていることは、十分に承知している。交通は、地域間交流にとって大変大切な要素である。台中市としては、少なくとも定期チャーター便を鳥取県との間に就航させることができればと考えており、実現に向け努力していきたい。
- ・ 台中市民だけでなく、すべての台湾国民にとっても、鳥取県はとても身近な存在である。なぜならば、鳥取県はまんが王国だからである。名探偵コナンやゲゲゲの鬼太郎のキャラクターには、大変な親しみを覚える。台中市は、新しく漫画の分野でも鳥取県との提携を始めるが、こういった交流も、新しいスタイルとして両地域の友好交流に相応しいと受け止めている。
- ・ 喜ばしいニュースがある。台中市は、国立漫画博物館の誘致に成功した。これは、映画、テレビ、アニメーション産業の発展を願ってのものであり、しっかりと支えていきたいと考えている。また、鳥取市の砂の美術館に学んで、台中市も砂の美術（サンド・アート）にも取り組むこととした。これからは、両地域で砂の交流も拓き、新たな局面を築くことができればと考える。
- ・ 台中の美しい気候、風景、グルメ、そして何よりも、人情味を分かち合っていくことを希望する。



林佳龍 台中市長（最前列中央）、陳訓養 台灣日本關係協會總領事回部弁事（最前列左端）ほか関係者による記念撮影

（３－４）九二一地震教育園區（台中市）

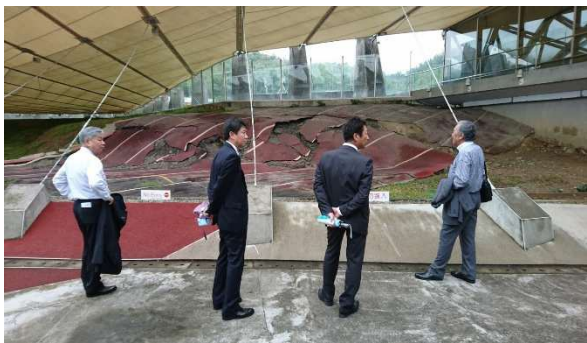
平成11年（1999年）9月21日に台湾中部内陸部を震源として発生し、台湾で20世紀最大となる地震被害をもたらした九二一大地震（台湾大地震）の震災遺構を保存し、防災教育施設として活用されている九二一地震教育園區を視察し、台湾における震災からの復旧復興及び防災教育の状況に関する調査を行った。主な調査内容は次のとおりである。

【主な調査内容】

- ・ 九二一大地震を引き起こした車籠埔断層は、南北延べ105km もあり、台湾中部を貫通し、断層の沿線に大きな破壊を引き起こした。
- ・ 台中県立光復国民中学（当時。現在の台中市立光復国民中学）では、車籠埔断層が敷地内を通り抜け、校舎とグラウンドを直撃した。3階建て校舎は、1階の教室が潰れて全壊し、塀も完全に倒壊した。グラウンドでも、ポリウレタン系陸上競技用トラックが高低差約2.5mの隆起を起こし、寸断された。光復国民中学の敷地を上空から鳥瞰すると、断層が残した大地の裂け目がはっきりと分かる。
- ・ 九二一地震教育園區は、当該地震で倒壊した光復国民中学の校舎等を震災直後の状態のまま保存する震災遺構として整備したものであり、大自然が引き起こす地震の巨大な力をまざまざと来園者に見せつける。九二一大地震の史実を記録する拠点施設であり、教訓を後世に伝える地震教育施設としても供用されている。当日も、校外研修のため来園したと思われる修学バスが多数駐車されていた。
- ・ 園区内には、車籠埔断層保存館、地震工学教育館、映像館、防災教育館、再建記録館の五つの施設がある。車籠埔断層保存館では、激しく隆起した陸上競技用トラックの遺構や断層の地底断面等が展示され、地震工学教育館では、倒壊した校舎遺構が現状保存されていた。

映像館では、九二一大地震に関連する写真や映像資料が提供されていたが、これは旧体育館を改築した施設であり、遺構の保存と利活用との両立が図られていた。

- ・ 防災教育館では、「防災魔法学校」と題した漫画キャラクターによる紹介・展示も行われ、若者世代や児童生徒にも親しみやすい場とする工夫が施されていた。
- ・ 発災時の光復国民中学の校舎が違法建築だったというわけではなく、当時の台湾の建築基準には適合していた。九二一大地震を契機として、台湾の建築基準法は従前よりも厳格化された。
- ・ 台湾では、地震を想定した防災訓練は、九二一大地震の発災前は一般的でなかったが、発災後に普及するところとなった。9月21日を国家防災日と定め、台湾全土で一斉に防災訓練を実施している。
- ・ 九二一大地震の発災当時、外国から最初に台湾へ駆けつけた緊急救助隊は、日本の国際消防救助隊である。近年、台湾の防災政策では、日本の先進事例が参考とされている。



保存されている震災遺構（旧光復国民中学）等の施設内視察の様子

（３－５）台中フローラ世界博覧会公式レセプション（台中市）

〔応対者〕 台中市政府 林佳龍 市長

〔出席者〕 鳥取県議会 藤縄喜和 議員、内田博長 議員、島谷龍司 議員、浜田一哉 議員、三朝

町 松浦弘幸 町長、北栄町 手嶋俊樹 副町長、一般財団法人鳥取県観光事業団 衣笠克則 理事長（鳥取県関係）

鳥取県議会議員訪問団は、鳥取県を代表して台中市政府からの御招待にあずかり、同市の主催する台中フローラ世界博覧会公式レセプション（開幕前夜夕食会）に出席した。林佳龍台中市長との主な懇談内容は次のとおりである。

【主な懇談内容】

- ・ 台中・鳥取間の定期チャーター便就航を実現するためには、台湾の航空会社や旅行会社の協力を得ることが欠かせない。友好交流都市となった台中市と鳥取県は、これまで以上に自治体同士の連携を深め、航空・旅行業界への具体的な働きかけに臨む必要がある。

【平成30年11月3日（土）】

（４－１）台中フローラ世界博覧会（台中市）

〔対応者〕 台中フローラ世界博覧会事務局、台中市政府、一般財団法人鳥取県観光事業団

台中フローラ世界博覧会（台中花博）は、2010台北国際花の博覧会に次いで、台湾で開催される二度目の国際園芸博覧会である。鳥取県との間で友好交流協定が締結された台中市で開催されることから、本県からは一般財団法人鳥取県観光事業団が国際室内花コンテストに作品を出展し、鳥取県、三朝町、北栄町の各自治体がPRブースを設置する運びとなった。

台中フローラ世界博覧会における本県関係団体の出展状況を視察し、鳥取県と台中市との間の自治体交流の進捗に関する調査を実施した。主な調査内容は次のとおりである。

【主な調査内容】

- ・ 視察当日の11月3日は、台中フローラ世界博覧会の開幕日に当たり、オープニングイベントの一環として、「名探偵コナン」及び「ゲゲゲの鬼太郎」の着ぐるみと平井伸治知事が登壇し、また、チーム「百花繚蘭」がしゃんしゃん傘踊りを披露する鳥取県PRステージが后里馬場会場のメイン・ゲート付近で催され、多くの台中市民がこれを観賞した。
- ・ 后里馬場会場の中核的パビリオンに相当する「花艷館」では、日本の8自治体を含む36団体が参加する国際室内花コンテストが催され、鳥取県からは、一般財団法人鳥取県観光事業団と一般社団法人鳥取県造園建設業協会との連携による「とっとり花回廊と鳥取県一開山1300年「大山」を借景とした日本有数のフラワーパークへようこそ」と題する作品が出展された。この作品は、我が鳥取県の誇る大山を背景にとっとり花回廊の様子を植物で表現するものであり、花回廊のシンボルである「フラワードーム」をはじめとする周囲の建物と園庭を、ハンギングバスケットと花の寄せ植えによる華やかな空間演出で見事に再現する力作であった。
- ・ 会場の一角では、既存の厩舎が交流自治体のPRコーナーとして提供されていた。厩舎の内には、日本の他県自治体と並んで三朝町及び北栄町のブースも設置され、観光パンフレット等を配付していた。ほとんどのブースが無人の中で三朝町及び北栄町のブースには、三朝町と友好交流関係にある台中市石岡区から、台中市立石岡国民中学の生徒の皆さんが、ボランティア・スタッフとして参加されており、呼び込みや周辺の美化活動に勤しんでおられた。
- ・ 鳥取県の観光PRブースは、別途、テント村の一角に設けられており、現地スタッフの方達によって、「まんが王国とっとり」等の広報が行われていた。



台中フローラ世界博覧会の施設内視察の様子



台中市立石岡国民中学の皆さんとの記念撮影



鳥取県観光PRブースのスタッフの方との記念撮影

以 上